

岳温泉と湯守

湯守が継承してきた安達太良山の温泉文化



岳温泉（福島県・二本松市）は、1200年以上の歴史を持つ温泉地として知られ、平安時代から人々を癒してきました。温泉地はもともと現在の源泉地帯にありましたが、山崩れ・戦争・火災などの災害ごとに場所を移し、明治時代に源泉から8km離れた現在の地に岳温泉が築かれました。

この温泉文化を支えてきたのが「湯守」と呼ばれる存在です。湯守は温泉の清掃や湯温の管理、湯小屋や源泉の維持を通じ、湯の安全と質を守り続けてきました。画像（上）は、赤松の幹をくり抜いた木製の湯樋の設置作業の様子を写したもので、当時の作業風景を伝えています（1980年代後半）。

現在も湯守は、年間を通じて標高約1500メートルの源泉に上がり、温泉管の詰まりを防ぐため湯花の除去作業にあたります。作業中は常に火山ガス（硫化水素）に対峙し、冬は5メートルを超える積雪とも闘う、厳しい日々です。こうした営みを通じ、岳温泉は温泉としてだけでなく、地域の文化と歴史を映す場として今も息づいています。

